

## ブラジル、保健相が2代連続の更迭で防疫政策の混乱は必至

～景気減速、原油市況の低迷、政治混乱、新型肺炎対策などリアル相場への悪材料は山積～

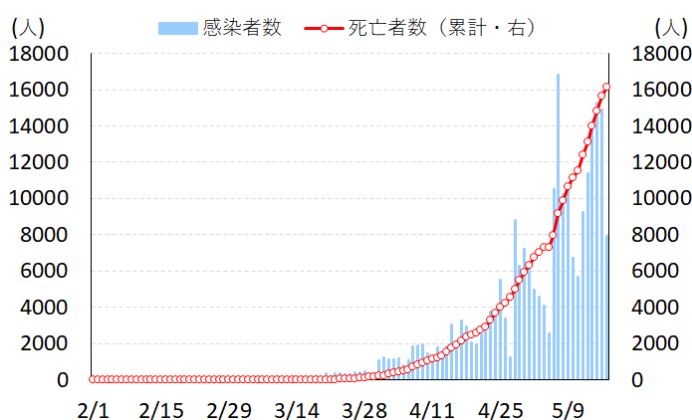
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

### (要旨)

- 昨年末に中国で発見された新型コロナウイルスは、感染拡大の中心地が新興国にシフトしており、事態収束が厳しくなる可能性が高まっている。ブラジルでは先月、防疫政策を巡る対立を理由に当時の保健相が更迭され、その後も「スター閣僚」であるモロ前法相が辞任するなど政治混乱が懸念されている。さらに、後任の保健相に就いたタイシ氏も新型肺炎対策を巡る対立を理由に辞意を表明するなど、保健行政の混乱は必至である。足下では国際金融市場の混乱は一巡しているが、景気減速懸念、原油市況の低迷、政治的混乱、新型肺炎対策を巡る不透明感と悪材料が山積しており、同国通貨のリアル相場は一段と下値を探るであろう。

昨年末に中国で発見された新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) を巡っては、足下で感染拡大の中心地が新興国にシフトしており、医療インフラの脆弱さに加え、今後は季節的に冬に移行する南半球での感染拡大の動きは事態収束を厳しくすることが懸念される。ブラジルにおいては、州政府レベルでは感染抑制に向けた外出自粛並びに隔離措置を推進する動きがみられる一方、一連の対策による経済への悪影響を警戒してボウソナロ (Bolsonaro) 大統領はこうした対応を強烈に批判するなど、防疫政策を巡って国が二分する事態となっている。先月には、ボウソナロ政権内において自主隔離を呼び掛けるなど防疫政策の強化を謳った医師出身のマンデッタ (Mandetta) 元保健相が更迭され、後任には医師 (腫瘍学者) ながら政治経験がないタイシ (Teich) 氏が就任するなどドタバタ劇がみられた。さらに、マンデッタ氏の更迭を巡っては、政権内で国民からの人気が高いモロ (Moro) 前法相が同氏の貿易政策を支持する方針をみせていたため、政権内に亀裂が生じることが懸念された (詳細は4月24日付レポート「[ブラジル、新型肺炎流行の背後で政局を巡る懸念が露呈](#)」をご参照下さい)。その後にモロ氏はボウソナロ大統領による警察人事への介入を理由にこれに抗議するべく法相を辞任する事態となり、国民からの人気の高さに加え、政権内での影響力及び権限の高さゆえに『スーパー閣僚』とも称される同氏の政権離反を受けて、各界でボウソナロ大統領の批判が高まる事態を招いている (詳細は7日付レポート「[ブラジル、コロナ禍と原油安の背後で政局リスクもリアル相場の重石に](#)」をご参照下さい)。このように政治的混乱が表面化していることに加え、上述のような防

図1 新型肺炎の新規感染者数と死亡者数(累計)の推移



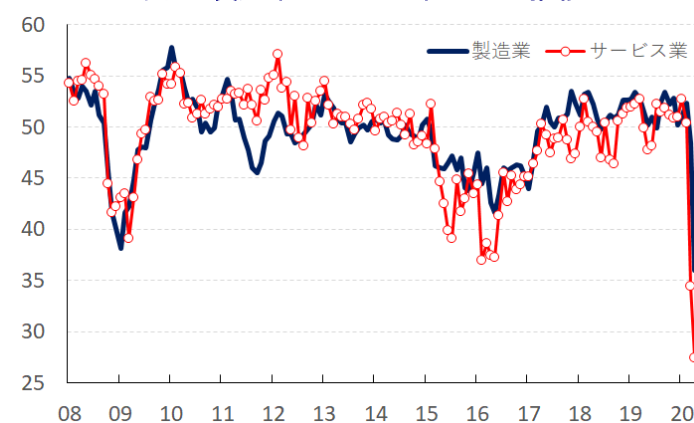
(出所)Refinitiv より第一生命経済研究所作成

疫政策を巡るドタバタも影響して、足下では累計の感染者数は 23 万人を上回るなど世界で 4 番目の水準となっているほか、死亡者数も 1.6 万人を上回るなど感染爆発に直面している。こうしたなか、先週 15 日にはマンデッタ氏の後任の保健相に就任したタイシ氏がボウソナロ大統領との意見対立を理由に辞意を表明するなど、保健行政の旗振り役である保健相が 2 代連続で事実上更迭される異常事態となっている。タイシ氏が辞意を表明した背景には、ボウソナロ大統領が新型コロナウイルスの治療薬として抗マラリア薬（クロロキン）の全面使用を求めるなか（トランプ米大統領も同様の主張を展開）、有効性及び安全性を理由にタイシ氏が反対したことがあり、前任のマンデッタ氏も同様に反対していたとされるなど、保健行政の混乱は必至とみられる。他方、地方レベルで実施された外出自粛及び隔離措置の影響で足下の企業マインドは急速に悪化しており、特にサービス業の景況感は過去最低を更新するなど、近年経済成長

のけん引役となってきた家計消費など内需への悪影響が懸念されるとともに、景気の一段の下振れは避けられなくなっている。国際金融市場においては、米 F R B（連邦準備制度理事会）をはじめ世界的に金融緩和の動きが広がりを見せるなど『カネ余り』が意識されていることを受けて、投資家の中の『リスク・オフ』姿勢は一時に比べて後退する動きがみられる。しかし、国際原油市況の低迷が続いている上、新型コロナウイルスを巡る防疫政策の混乱に加え、政治的混乱も懸念されるなど悪材料が山積するなかで、同国の通貨リアル相場は最安値圏で推移する厳しい状況が続いている。当面のリアル相場については、新型コロナウイルス対策を巡る混乱も影響して一段と下値を探る展開となる可能性は高いと見込まれる。

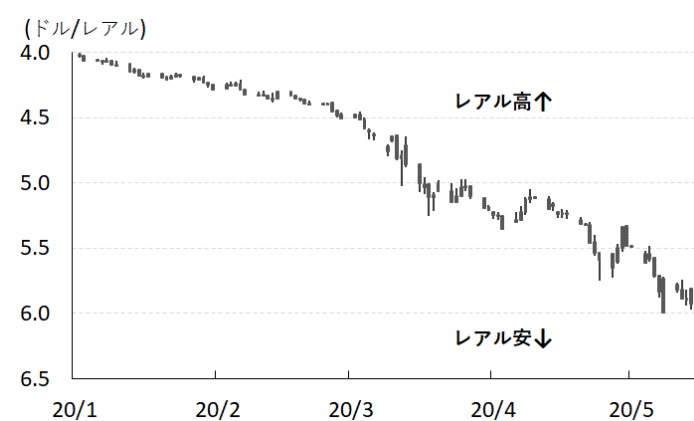
以上

図 2 製造業・サービス業 PMI の推移



(出所) IHS Markit より第一生命経済研究所作成

図 3 レアル相場(対ドル)の推移



(出所) Refinitiv より第一生命経済研究所作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。